

活性化対策特別委員会会議録

1. 日 時 平成24年3月2日(金曜日)
午後1時28分～午後1時55分
2. 場 所 委員会室
3. 出席委員 原 田 茂 委員長 西 岡 晃 副委員長
竹 岡 昌 治 委 員 安 富 法 明 委 員
南 口 彰 夫 委 員 大 中 宏 委 員
田 邊 諄 祐 委 員 柴 崎 修一郎 委 員
荒 山 光 広 委 員 三 好 睦 子 委 員
有 道 典 広 委 員 秋 山 哲 朗 議 長
布 施 文 子 副 議 長
4. 欠席委員 河 村 淳 委 員
5. 出席した事務局職員
重 村 暢 之 議会事務局長 岩 崎 敏 行 議会事務局主査
岡 崎 基 代 議会事務局主査
6. 説明のため出席した者の職氏名
林 繁 美 副 市 長 田 辺 剛 総合政策部長
篠 田 洋 司 総合政策部次長 松 野 哲 治 総合政策部商工労働課長
伊 藤 康 文 建設経済部長 福 田 和 司 総合観光部長
綿 谷 敦 朗 総合観光部観光振興課長

午後 1 時 2 8 分開会

委員長（原田 茂君） それでは、只今より最終となる活性化対策特別委員会を開催いたします。副市長さん何か報告事項ありますか。

副市長（林 繁美君） 特にありません。よろしくお願いします。

委員長（原田 茂君） 議長さんありますか。

議長（秋山哲朗君） 特にありません。よろしくお願いします。

委員長（原田 茂君） 委員の皆さん何かございますか。（「ありません」と呼ぶ者あり）お手元に配付してあると思いますが、前回とほぼ一緒に、終わりから 2 枚目に第 7 回の活性化対策特別委員会の要約と。これが追加ということでございます。

それで本委員会は、本日の委員会も含めて 8 回開催しております。その経過を踏まえ、これを最終委員会としたいと思っております。

前回、配付してありますので、ご検討されていると思いますので、それには委員の皆さんのご意見とございますか、追加の文言のところは訂正がありましたが、よろしければご確認いただきまして、この報告書を議長宛に提出したいと考えております。

何か委員の皆様からこの最終報告案についてご意見がございませうか。はい、大中委員。

委員（大中 宏君） 最終報告案についての意見というわけじゃあないんですけど、この中を見るとちょっと具体的なことが出てないんで、ちょっと具体的なことについて、行政当局のほうにも縷々お願いしておきたいと。私もこれで議員生活が最後になりますんで、最後のお願いと思ってひとつ聞いていただきたいと思うんですけど。

今、美祿の人口はもう 2 8 , 0 0 0 を切ろうとしているわけですよ。大変深刻な状況になっています。先だって、いわゆる土地開発公社も解散してこちらのほうに来たということですけど、少子高齢化の進行で人口がどんどんどんどん流出していると。これは、美祿に、いわゆる企業の誘致がなかなか難しいと。今、円高状況の中で、企業がどんどん海外で、現地生産をしようとしておると。いわゆるやですね、国内投資っていうのは非常に難しいと思っております。

そうすると十文字原も、これ永遠に私は、塩漬けになるんじゃないかというふうに思います。市にとっても大変な重みになると思います。

今、国は福島原発の問題から、いわゆるエネルギーの政策を展開しようとしてい

ますね。水力発電所とか、あるいは太陽光のエネルギーを利用してやるとかいうふうなことに方向転換を今、しようとしています。私は十文字原の開発にこの太陽光の、いわゆるパネルを設置していただくような、そういうふうな今、国がせっかく今から前向きに行こうとしておるので、この政策にまっぴじめに、美祢が手を挙げてこれに取り組んでいただけたらと。

それをこの活性化対策委員会の最終報告の中にも、具体的にひとつ入れていただけたらいいんじゃないかと思いますが、間に合わなければ24年度の、いわゆる大課題として取り上げていただけたらというふうに思いますが、いかがなものでしょうか。

委員長（原田 茂君） どなたか。南口委員。

委員（南口彰夫君） 大中委員さん、十文字原の太陽光発電の案を提案されたそいね。前のじゃけえ、産業振興、活性化の前、産業振興の時にもそうなんじゃけど、十文字原、一回視察したことがあるんですね。いろんな用途の案は出てくるが、一番肝心なところを高規格道路のインター、今、インターが通過して上から見られるようになって、ああこんなに、こうばらばらにされちゃったんかって。当時わかりにくかった、造成中じゃったから。

空き地が、一番メインのところ結局高規格に取られちよると、県に。残るところの面積の活用は、かなり限定されるんじゃないかっていう話が一回出たんで、そのあと確かに十文字原の活用については、突っ込んだ話が出なかったんですね。

もう一つは、太陽光の発電の分は、家庭用は除いて企業や地域がやっちょるは、かなり大規模で大きな面積を活用したやつが促進されよるっちゅうのは、テレビ等であるんですけど。あそこの、今のばらばらの面積の中で、具体的に太陽光を検討していくとすりゃあどうした面から、今の太陽光ちゅうのは、いっぱいパネルを上げて集積型になっちょるそいね。それからいくとちょっと面積が心配なるんですけど、その辺は、含めて執行部に答弁してもらおうたほうがええんじやろうか。（発言する者あり）そうですね。そういうことなので、含めて面積とその活用も含めて執行部で。

委員長（原田 茂君） はい、田辺総合政策部長。

総合政策部長（田辺 剛君） 只今の太陽光発電に十文字原事業用地を活用してはどうかというご意見でしたが、実のところ、現在のところ、7月から再生可能エネルギーの全量買い取り制度が始まることになってまして、それに併せて、太陽光発電のパネル設置を目指して、いろいろなベンチャー企業が日本全国で用地を探して

おりまして、この十文字原総合事業用地についても問い合わせが来ております。複数の太陽光パネルを設置するベンチャー企業のほうから問い合わせが来ておりまして、現在のところそれを主に賃貸借、あの土地の買い取りということではなくて、賃貸借で20年間程度パネルを設置するということが主な業態になっておりますが、その価格面も含めて現在交渉中という、現にそういうことにも取り組んでおるといふご報告をさしていただきたいと思っております。以上です。

委員長（原田 茂君） はい、よろしいですか。はい、安富委員。

委員（安富法明君） 委員長、大変長い間お疲れでございました。前回もいただいておるんですが、提言書の案ですが、一つね、1の産業振興の推進。産業振興の推進っちゃうのがようちょっと、もうあれなんじゃけども。産業振興でもええんじゃないかと思うんですが、その4行目あたりに、このため平成23年3月に事業者自らその発展を切り拓いていけるようって。事業者自らっていうのがね、事業者っていうのが、何て言うのかなあ、もうちょっと違い表現があるんじゃないかなあっていうのが、まず一つ。

ちょっと皆さんの意見を聞いていただいて、私だけなら別にかまいません。

それから、一番下の空き家対策なんですけど、空き家対策、萩市が最近新聞に、2、3日前か、ぐらいで条例化してますよね。これ委員長ちょっと控え室の話で、話したことがあると思うんですが、この中に法制化っていうんで、市町村だったら条例化かな。条例化も含めて検討するっていうふうなことが入れたほうがちょっと格調が高いっていうか、いいかなあっていうふうな気がちょっとします。また皆さんに諮ってみてください。

委員長（原田 茂君） はい、只今、安富委員からご提言がありましたけど、この件についてどういたしましょうか。このとおりでよろしいでしょうか。それとも安富委員が言われたように文言を入れますか。はい、大中委員。

委員（大中 宏君） どこの市やったか覚えていないんですけど、この空き家対策についても景観上よくないと。ある程度、強制的な面が出来るぐらいの何か条例をねえ、何かそんな制定をしたような話を聞いたようなことあるんですけど、もう少し、きつい文言を入れたほうが、ジオパークを目指す美祿市にとっては、これ大事じゃあないかと思っております。

とかく幹線道路かっけても結構空き家が目立ちます。大変見苦しいし、綾木にも崩れかけたのがそのまま放置されておりますので、大変危険を及ぼしますので、強制はできませんけど、それに近い文言を入れたほうがいいんじゃないかと思いま

す。

委員長（原田 茂君） はい、南口委員。

委員（南口彰夫君） 結論は大中委員の意見と一致するんですが、この空き家対策についても、以前執行部から資料の提出も含めて説明を受けたことがあるんですね。ありますよね、執行部のほうから。資料の提出も含めて説明を受けたことがあるんですが、その時の議論も結局、空き家がいっぱい美祢市中あちこちにいっぱいあるけど、それを対策をするのに、やっぱり提供してもらえりゃあ出来ると。ただし、更地にして、しかも税金も一掃してということで議論になったんですね。

だから、例えば、もうその時も名前を出したんですけど、秋芳洞の入り口の鬼笑亭という大きな店屋があると。これをおそらく素人考えでも、あの面積で上に建っちょる鉄骨を解体するということになれば、それこそ処分費も含めたら何千万から億に近いんじゃないかと。しかも、賑やかだった頃のお客さんがいっぱい入っちょった頃をちょっとイメージして見るならば、おそらくああいう状態が長期間放置されちよるということになれば、税の滞納も相当の額があるということで、具体的にどう対応するかと、できるんかという議論をしたことがあるんですね。

先程申したように議論の結論として、じゃあ鬼笑亭の空き家対策を含めてですね。それから、店舗としては若干いじれば活用する可能性があるかと。それは実質何らかの形で、公募するかして、その店舗を活用してもらおうような対応もあると。

だから、空き家対策の中に、多少手を加えれば、それをお店としても、事務所としても、何らかの活用方法があるという空き家があるが、片やすでに相当の金額をかけて、何百万、何千万という解体費用をかけて、更地にして、その上で対策を取らなければならないという物件もあると。

この二つが資料として出されて、議論をして、結局税金の滞納をも含めて、空き地にして、さあ使ってくださいって、市に寄付しますからっていう奇特な人が人がおるかなってということで、話が止まってしまったと思うんですね。

その後こうした議論の中で、空き家対策について、国や県の助成金等も含めて、検討してみる、調べてみる必要があるんじゃないかという意見を述べた記憶があるんです。

ですから、秋芳、美東の中心街だけでなく、美祢駅のこっち側の通りも含めてですね、具体的な対策を、おそらく切羽詰まってくる時期が近いうちに来るんじゃないかと思うんですね。そういう意味でこの期間、何らかの国などの制度的なものなどについて、変わった変化があれば、まず、その辺について触れて、若干議論して

みることが必要なんじゃないかと思います。あとはよろしく。

委員長（原田 茂君） はい、ですから結局、条例化に向けて検討してほしいと。（発言するものあり）何か変わったことがございますか。あればご報告をお願いします。はい、福田部長。

総合観光部長（福田和司君） ただ今の南口委員のご質問でございますが、鬼笑亭につきましては、新年度24年度予算におきまして、道路の通行者のほうの観点から、防護さくの設置並びにアートパネルの設置を予算計上しております。

それと、これは協議の段階でございますが、土地所有者につきましては、継続的に協議をさせていただいております。先程委員さんのほうからもありました、そういったもろもろの経費負担も含めまして、その辺の市としてのスタンスも、意見交換しながら協議を重ねている状況でございます。なかなかすぐに結論は出ませんが、前向きな形での議論をさせていただいているという状況でございます。以上でございます。

委員長（原田 茂君） はい、南口委員。

委員（南口彰夫君） そうすると今の話からいけば、秋芳洞の入り口の空き家で、景観上の問題と危険対策の二つの対応については、この24年度で予算化しちゃうということは、はじめてじゃったね。

じゃあ空き家対策というて、早急にそれを解体してとか、処分してとか、その空き家の店舗を、具体的にお金をかけてच्छゅうこともあるが、観光地のメインとなっているところについては、危険物の落下等景観を損なうということの保全で、とりあえずは対応を始めた。そうすると、空き家対策というのは、そういう面も含まれてということにつながってくるだろうと思うんですね。

ですから、ここの先程言われたように、中心市街地や観光地における空き家、廃墟ビルなどはというところには、これはもう少し突っ込んだ文章、文言を入れて、わかりやすくしたほうがいいということの先程の意見については賛成だと。今の意見を踏まえてするとすれば、即対応が必要なのは危険家屋、特に観光地には景観を損なうと。こういう面では急がれる対応。それから将来的には、空き家、空き地を含めてですね、どう活用していくかということの対応、その辺を簡単にまとめた形で入れて、要望したほうがいいのではないかとは思いますが。以上です。

委員長（原田 茂君） あのですね、私も先程申したと思いますが、これは前回配付してあるんです。それで皆さまの承認を得ておるわけですね。それを大幅にどうこうってच्छゅうのはおかしいんじゃないかと思えますよ。

ですからその時にええですかと、私が皆さんに尋ねた、その時によろしいです。
(発言するものあり)ですから、12月8日からきょうまで何日ありますかいいね。
かなりあるんですよ。

ですから、きょう新たにいろいろ出されると、またそれをまとめをして、また皆さまに報告せんにゃいけん。(発言するものあり)おっしゃることはわかるんです。ですから、どうでしょうかね、みなさん。はい、安富委員。

委員(安富法明君) ちょっと言葉が足りなかったかもしれません。この空き家対策というのは、個人の所有物をですね、公共の立場で、景観上あるいは安全上どうにかしましょうってことなんで、難しい面が多分にあります。

難しいんですが、先程も言いましたように、萩市さんも大分前から取り組まれてですね、この度条例として整備をされております。その中には、ある程度強制力はないにしても、指導したりとか、いろんな形で行政が関与できるような部分を入れておられるように、新聞には書いてありました。

そういうことで、ひとつの課題として私が申し上げるのは、空き家対策の一番最後の段ですね。市において対応策を講じられることを提言をしますというふうになっております。この間にですね、条例化も含めて対応策を講じられることを提言をしますっていうふうに入れていただく程度で、いいんじゃないかというふうに思います。今後の課題として、他市の例も参考にしながら、十分対応は可能だろうと思っております。

委員長(原田 茂君) はい、林副市長。

副市長(林 繁美君) 今、空き家対策のことでご意見が出ております。実は午前中ありました観光の特別委員会もですね、以前から空き家対策、空き店舗、同じようなご意見がやはり出ております。

そして、きょう最終ということで、議長宛に提言書を、まとめたものを出されるということで話されました。同じような空き家対策、廃屋の案件ですので、出されるときに、今ご意見言われたことはほとんど網羅はされておると思いますが、やはり同じものでもし出るものであれば、その辺の整合性もですね、委員長さんのお計らいで、観光のほうとの整合性等もですね、ひとつ話されたんがいいんじゃないかと思えます。

委員長(原田 茂君) はい、ありがとうございました。それでは、今の件については、観光の特別委員長とも相談して考えたいと思います。よろしいですか。(発言するものあり)それでは、一任させていただきます。

それと、今の安富委員が、事業所自らと、その文言の件言われましたが、この件についてはどうでしょうか。これでよろしいですか。ええですね。それでは、これはこのままいかしていただきます。

他に何かご意見はございませんか。それではその他ということで、何かあれば、田邊委員。

委員（田邊諄祐君） 活性化対策特別委員会ですね。これ1年間見て、委員長に対して大変申しわけないんだけど、もう少しね、やっぱり本当にこの字のごとくね、街が活性化するような内容であってほしいと思うんですよ。

委員長（原田 茂君） それは、田邊委員も意見をどんどん出されてですね、それを集約したものが、これでありますので。

委員（田邊諄祐君） 大中さんがね、太陽光のこと言われたんだけど、これから先は自然エネルギーをいかに活用するかちゅうのがですね、国を挙げてやってるし、特に美祿市において、これは後から一般質問でやりますので、あんまりしゃべるとしゃべることがなくなりますので、しゃべりませんけど。

やっぱり、活性化対策特別委員会っていうのはね、人口はこのままいくとね。僕は早かれ4、5年先には2万5,000位になると思うんですよ。そうすると何のために美祿市はあったかと、議会も執行部も何のためにやったかというのは、本当にクエスチョンマークになると思うんですよ。だから、意見をどんどん言わせるようなムードにするし、どんどん未来を見通した意見を。

委員長（原田 茂君） ちょっと待ってください。今意見をどうとか。私が抑えたことはないですよ。

委員（田邊諄祐君） いや、抑えたことはないんだけど、やっぱり未来を見越したね。せっかくいい意見も、議員の中にはおられると思うんですよ。

例えば有道さんなんか、いい案を出されたんだけど、結局そのままになっているしね。（発言するものあり）前のことやったですかいいね。そういうのを取り上げてやらんと、いつまでたっても、美祿市は衰えるばかりだというふうに思うんですね。その辺をぜひよろしゅうお願いします。

委員長（原田 茂君） これはまた、次年度の課題ということで、また執行部のほうに検討していただきたいと思います。はい、有道委員。

委員（有道典宏君） 空き家対策の文ですいいね。個人所有物って書いてるのが、私有物件が対象であることからって書いた方が、個人だけじゃないと思うんですけど。その辺は大したあれではないかもしれませんが。（発言するものあり）

委員長（原田 茂君） 含めての個人じゃいけんですか。（発言するものあり）
今、有道委員から個人所有物を私有物件と訂正したらどうかと。よろしいですか
ね。（発言するものあり）それでは、そのようにさせていただきます。ほかには。
ないようですので、一応先程申されましたことを訂正して、最終日本会議議長のほ
うへ出させていたいただきまして、最終日に本会議で報告させていただきたいと思いま
す。

それでは以上で、活性化対策特別委員会を閉じます。どうもお疲れでございまし
た。ありがとうございました。

午後 1 時 5 5 分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成 2 4 年 3 月 2 日

活性化対策特別委員会

委員長

Handwritten signature of Shigenori Hara in black ink, consisting of three characters: 原, 田, 茂.